



千葉労働車動

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

92.7.23. No363/

第2回営業分科会定期委員会(7/18) 3大闘争(原職奪還・権利獲得・組織拡大)を決定!



第2回定期委員会

七月一八日、営業分科会第二回定期委員会が動力車会館において行われた。

「原職奪還まで絶対負けない」

議長に選出された関一夫君(総武支部)は、「自分も売店・ソバ店と配転を受けた。絶対に負けなう!」と力強いあいさつを行った。

調査活動に全力あげ団体交渉で当局を追求せよ!

冒頭あいさつに立った渡辺分科会長は、「JR当局は要員を減らし、収益をあげることばかり考えている。要員削減合理化は我慢で

きない。営業分科会は、各駅バラバラという状況の中で組織を強化してきた。現在、新採が営業職場にしか入らないという状況、又、営業で働く労働者の不安・不満に対し、勤労千葉の闘いを訴え、課題を地道に克服し、改善から要員増へと進む職場生産点の闘いが求められている。今委員会をもって調査活動を強力に展開し、団体交渉で当局を迫らなう!」と分科会の闘う方針を訴えた。

来賓として、本部田中書記長から、①営業関係をめぐる合理化攻撃の状況―二三日にも成田新駅開業提案と合わせて提案される動向にある。(後日日刊にて速報予定)

②「九二・三ダイ改」闘争からPKO阻止の闘い、そして解雇撤回原職奪還―一波・清算事業団闘争の闘いを通して、労働運動の進む方向を示し抜いた闘いの総括と展望が明らかにされた。

つづいて経過報告、運動方針(案)、規約の制定について、そして予算(案)の一括提起を受け、質疑応答に入っていた。

サービス低下
安全の危機招く
営業合理化を許すな

質疑の中で出された主なものは、
①、運転士登用差別事件地労委について結審したが、今後の闘いをどう作っていくか?
②、ホーム要員の見直し―削減は運転保安上乗務員への影響が大

きいなど問題がある。乗務員分科会との共通する闘いとして考える必要がある。

③、千葉支社内(新小岩)に、「営業支店」が新たにできたが、どういう役割・業務を担務しているのか?

④、ローカル線の無人化が言われているが、具体的な状況としてどうか?

⑤、キヨスク型売店の統廃合が噂されているが、今後の関連事業の考え方・方向性はどうか?

⑥、駅の寝室について、十分な休養をとるためにも個室化とすべ

きた。又、電話対応のできる要員体制にすべきだ。等々が出された。

闘いに起つ

営業分科会!!

満場一致で分科執行部からの提案を採択し、営業からの反転攻撃の闘い―原職奪還、営業での権利獲得、組織拡大への三大闘争に、全営業分科組合員が総力で決起することが確認された。

「闘いなくして安全なし」「闘いなくして労働条件なし」を肝に命じ、営業分科会は闘いに起つ!

比例代表制「社会党

千葉選挙区

赤相操

東京選挙区

内田まよとし

茨城選挙区

やたべ理

埼玉選挙区

瀬谷英行

92 参議院選 推薦候補の 全員当選を!